

英検を活用して英語の基礎を身に付けよう

－カードの効果的な活用方法を考える－

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間をお聴きいただきましてありがとうございます。

今日は来月のちょうど中頃に、実用英語技能検定試験、英検がありますので、どんなふうにしたら英語によるコミュニケーションの力をつけることができるのか、英検を通して英語のコミュニケーション能力を身に付けることができるのかを、お話しさせていただきます。

2. 英検を活用して英語の基礎を身に付けよう

(1) 小学校 5・6 年生くらいの方が、今英語を勉強している方が多いようですね。英語検定には、だいたい中学 1 年終わりくらいのレベルで合格することができる「5 級」、中学 2 年生程度が終わったくらいで合格することができる「4 級」、中学 3 年生ないし高校 1 年生の初めくらいまで勉強していれば受かる「3 級」、高校 1 年生の終わりくらいから高校 2 年生くらいのレベルまできちんと勉強していれば受かる「準 2 級」、高校卒業程度ないしは短大の最初くらいのレベルから出題される 2 級、それから、大学卒業程度の英語力があるのが「準 1 級」、最終的に英語の達人のレベルまでいくのが「英検 1 級」。このように様々な級が用意されていますので、ぜひ自分のレベルに応じて実用英語検定を受検していただいて、自分の英語によるコミュニケーションのスキルを上げていったらいいと思います。

(2) 皆さんが試験を受ける理由は何でしょうか。例えば、英検試験には、英語検定、漢字検定、数学検定などいろいろな能力検定があります。今の自分の実力を試すということもあり、これも 1 つのすばらしい目的です。しかし、実力を試すだけではなくて、例えば、その級を合格することを通して、その級のレベルまで自分の実力を上げてしまおうという別の目的もあります。私はできれば積極的な意味で、英語検定、漢字検定、そろばん検定などいろいろな検定を活用することをお勧めします。その級に合格するにはだいたいこのくらいまでのスキルが必要であるから、このくらいの力をつけなくてはならないといいうことで、いろいろな基礎的な勉強したり、練習を積み重ねてその級の合格を果たす。このような形で、英語検定をはじめ、いろいろな検定を活用するのがすばらしいやり方ではないかと思います。お勧めさせていただきます。

(3) 英語検定につきましては、各級ごとにレベルが設定されております。それから、どのくらいのレベルまで到達すれば合格するのかということも、あらかじめ示されています。また、過去 30 年以上もこの検定をやっていますので、過去に出題された問題は全て公開されております。ですから、どのような内容が出題されるのか、どのような問題が出題されるのかをあらかじめ知ることができますので、非常に勉強するのには役立つ検定であります。

(4) できれば英語検定を勉強する場合には、次のような形でやるといいと思います。やはり、文法は大切なので、基礎的な文法だけは、その級に出題される文法事項だけは、英語検定のテキストや様々なテキストを活用して押さえた方がいいと思います。それが押さえられましたら、すぐに問題練習に入っていいと思います。過去に出題された問題を何年間か丁寧に自分の力で解いてみる。私のお勧めは過去 10 年分くらいはやった方がいいと思います。英語検定は年に 3 回ありますので、過去 10 年間の出題にされた 30 回分の問題を、ゆっくりゆっくりやった方がいいと思います。どのようにやるのかといいますと、まずは自分で英語検定の問題を 1 回ノートに解答を下記ながら解いてみましょう。1 回分、問題を解き終わったらどうするか。各問題集には詳細な解説書がありますので、その解説書を横に置いて、学校の授業を受けるようなつもりで答えを確かめるとよいと思います。自分で 1 度やったときに、問題を読んでわからない単語があったら、その単語の下に線を引いておく。答え合わせをするときには、その読み方を英和辞書で調べ、ノートの単語の下に発音記号を書きます。意味がわからなかったら、意味を調べます。ノートに一度整理がし終わったら、できれば単語カードを作っていただいて、自分で意味がわからない単語、読み方がわからない単語は、カードの表側に英語や英単語を書き、その下に発音記号を書く。そして、カードの裏側に日本語の意味を書いたりするといいわけです。それから、できればその単語や語句が含まれる文章をそのままカードの表側に写し、裏側には日本語の意味を書いておくと、これもまたすばらしいです。問題はその後です。1 問 1 問、本文と問題文、問題文中の選択肢にいたるまで、非常に丹念に音読を練習をして正確によく読めるようにすることが大事です。それから、意味のわからない単語のカードを先程の方法で丁寧に作成する。カード作りが終わりましたら、カードの英語だけを見て、その意味を言ってみる。それが言えるようになったら、日本語を見て、英語に直して言ってみる。例えば、「book(ブック)」、b-o-o-k という単語がわからなかったら、表側に b-o-o-k と書き、裏側に「本」と書いておきます。読み方がわからなかったら book の発音記号を表側に書いておきます。また、分の例として、I have a abook. とあったら、その意味「私は本を持っています。」をカードの裏に書いておき、意味を言えるようにします。そして、最後は日本を見て英語の単語が書けるか、「私は本を持っています。」をいう日本語全文を見て、I have a abook. と正確に書けるかどうかの確認までします。そうすれば英語検定の勉強をしながら、相当の語彙、単語力もつきますし、英作文の力もつきます。文法の力もつきます。読んでわからないことは聴いてもわかりませんから、ヒアリング、聞き取りの練習にもなります。それから、スピーチも大切です。話をするときには、正確な文章でできるだけ話した方がいいので、単語だけではなく、その単語が使われている文そのものを覚えているとすばらしい話し方の勉強になります。本当にいい練習になりますので、カードを使った練習を英語検定でもお勧めします。

(5)カードは左はじに穴をあけておき、太い糸や大きいリングでカードをまとめ、たえず持ち歩くこと。カードの表を見て裏に書いてあることが言えて書けるか、カードの裏を見て表に書いてあることが言えて書けるか、何十回、何百回も練習してみましょう。

$5 \times 3 = 15$ というかけ算はその意味が「理解」できてから、何百回もいろいろな機会に練習したので何十歳になっても忘れることなく、口をついて答えが出てきます。英語も同じです。英検の各級に出てくる単語はすべてカードを用いて覚えることで一生使える英語の基礎が確実に身に付きますよ。

3. おわりに

今日は、1 か月後に迫りました実用英語検定の勉強について少しお話をさせていただきました。ぜひ挑戦してみてください。

以上

2008年8月20日加筆